

(書式1)【候補者用】

① 立候補者の 姓名と所属	関西大学 社会安全学部 菅原慎悦
② 立候補の理由と 抱負 (400字程度)	本学会の理事に立候補するに当たり、リスク学の重要な存立基盤である人文学・社会科学と工学・技術分野との架橋に貢献したいと考えている。立候補者は、大学の教養課程にてフランス哲学等に浸った後、“理転”して都市工学・原子力工学を学んだ、稀有な専門性を有している。原子力の大学院に在学中に福島原発事故を目の当たりにした経験から、原子力をはじめとした複雑な社会—技術システムのリスクに向き合うには、単に当該システムの技術的側面や特定の組織のみを対象としていてはマネジメントが完結せず、リスク評価が前提とする様々な仮定や知見の性質に対する系統的な見直しや、多様なアクターとの関係性や政治・規制・社会的風土等の考慮が必須であることを痛感した。近年のリスク学の国際的な発展においても、リスクを扱う上での“Knowledge”への着目や、システムック・リスクに対処する上でのガバナンスの重要性等、文理の知見の総合が一層求められており、本学会においても、より実りある学際的な議論と実践の深化を目指したい。
③ 本学会における 活動歴	2014年に入会して以来、原子力分野の確率論的リスク評価、リスク・インフォームド意思決定、災害リスク管理等に関する研究発表を継続的に実施してきたほか、レギュラトリー・サイエンタスクグループでの意見交換や議論、リスク・コミュニケーション関係の議論にも積極的に参加している。2019年度には奨励賞を受賞した。
④ 研究歴・職歴等 (100字以内)	2012年3月、原子力工学の大学院を修了後、(一財)電力中央研究所に7年半ほど勤務し、主に原子力発電所のリスク評価・管理・コミュニケーションに関する研究と実践に従事。2019年9月より関西大学社会安全学部准教授。

(書式2)【推薦者用】

① 推薦する候補者 名	菅原慎悦
② 推薦者の 姓名と所属	村山武彦 東京工業大学
③ 推薦理由 (400字程度)	菅原氏は、フランス哲学という人文系から原子力工学に移ったという経歴を持ち、またその後も、人文社会科学的なアプローチを常に重視してきたことによって、科学技術システムのリスクガバナンスについて、社会と技術の両方から深く研究できるという資質を持つ貴重な存在となった。また、電力中央研究所において原子力リスクの研究を行ったことは、推進側の論理と予防側の論理のせめぎあいについて学ぶ貴重な経験になったのではないかと思われる。原子力分野における安全目標、原子力防災制度、原子力事業者と立地地域との関係などについて重要な研究成果を残してきた。本学会の持つ、学際的かつ分野横断的なアプローチを1人で体現している菅原氏に、これからの日本のリスク研究をリードしていただきたく、理事候補として推薦します。